

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	高島 彬	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	講師
専門分野	言語学		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	日本語表現、応用英語Ⅰ、応用英語Ⅱ
大学院	日本文学・言語文化総論（オムニバス：担当14、15回）
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）物語における日本語と英語の証拠性の使用の揺れに関して	
（2）日本語におけるFictive Interactionの発生	
（3）ユーモアの発生に関する認知言語学的考察	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R6・R5・R4	
<p>R6 〈著書〉『Evidentiality in Japanese -A Cognitive Linguistic Study of the Japanese Evidential Marker <i>-rasi-i-</i>』、単著、2025.03、ひつじ書房。</p> <p>〈論文〉「仮想性を創発させる構文への拡張：現代日本語「感」における発話の名詞化について」『尾道市立大学日本文学論叢』、pp.13-24.</p> <p>〈論文〉「日本語と英語における証拠性「推量」の使用の揺れについて」『JELS』pp. . 日本英語学会、(査読有)</p> <p>〈学会発表〉「日本語と英語における証拠性「推量」の使用の揺れについて」『日本英語学会 第42回大会』名古屋大学、(査読有)</p>	
<p>R5 〈論文〉「現代日本語「～感」に反映されるFictive Interaction」『日本認知言語学会論文集 第23巻』、pp. 1-13.</p> <p>〈学会発表〉「言葉に反映される「錯覚」—認知言語学におけるFictivityについて—」『第15回おのみち文学三昧』</p>	
<p>R4 〈論文〉「証拠性の推論と直喩表現の関係について」『函館英文学 第61号』、pp.19-34、2022年3月.</p> <p>〈学会発表〉「現代日本語「～感」に反映されるFictive Interaction」『日本認知言語学会第23回全国大会』</p>	
R3以前の主な研究業績	
<p>(1) 〈論文〉「現代日本語「～感」に反映されるFictive Interaction」『日本認知言語学会論文集 第23巻』pp. 1-13.</p>	
<p>(2) 〈論文〉「証拠性「らしい」の文法化を動機づける脱主体化のプロセス」『ことばのパーспекティヴ』、pp. 417-428中村芳久教授退職記念論文集刊行会（編）、2018年3月.</p>	
<p>(3) 〈学会発表〉「カテゴリー構文を動機づける「発見性」について」『日本言語学会 第148回大会』、2014年6月.</p>	
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R4・R5・R6	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本英語学会、日本英文学会、日本言語学会、日本認知言語学会	
IV 社会活動	
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）	
（1）尾道市立大学 地域総合センター 公開講座「教養講座」	
公開講座	1回
<p>（公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入）</p> <p>一般公開講座にて、自らの専門である言語学の講座を行った。一方的な講義ではなく、なるべく参加者が参加できるよう、ペアワークやディスカッションができるタスクを用意し、双方向的な講座を行った。</p>	